

『住むサポ』4500DL突破

入退去トラブルをアプリで防止

sumusapo

不動産テック企業のsumusapo（スムサポ：東京都港区）が運営する賃貸入居者向けアプリ『住むサポ』は、ダウンロード数が7月に4500を突破した。利用者ほとんどが20〜30代の单身者やカップル、家族だ。『住むサポ』は、不動産管理会社と入居者をつなぐ無料アプリとして、2020年4月にサービスを開始。アプリ内のチャットを通して主に入居時・退去時の資料管理や手続き、トラブル

相談などがで、『住むサポ』のトップ画面

有期限 | 住むサポ SPEED24はこちら

2020年民法改正に対応!

今までになかった賃貸生活サポートアプリ

住むサポ

住むサポとは?

『住むサポ』は不動産管理会社と入居者をつなぐアプリです。チャットコンシェルジュがアプリでトラブルや手続きをIT化することで、不動産会社の働き方を効率化します。



去トラブル編

きる。相談対応は、宅建士などの資格を持つ同社のスタッフが行う。アプリは、ダウンロード後に登録フォームに必要事項を入力すれば無料で利用できる。特徴は、部屋の状態を写真で管理できる機能

や、設備・備品の状態を記録しておくルームチェックシート機能が付いている点。入居時の状態を正確に記録することで、退去時の敷金トラブルなどを未然に防ぐのが狙いだ。申込書や契約書、間取り図などもアプリで一括管理が可能。引っ越しの際に必要なとなる電気・ガス・インターネットの手続きなども無料で代行している。月額500円で急な水漏れなどにも対応する24時間対応のチャット機能も用意している。

民法改正前には、通常使用による損耗や経年劣化でも修繕費を請求されるケースがあったが、4月の民法改正後は、このような場合は原状回復義務がないと明確に法律で規定された。敷金についても、賃料の滞納などがなければ、基本的に全額

返納となる。民法改正の内容を把握していても、入居者1人が業者と話し合いをするのは不安も大きい。そんなとき、アプリで専門家に相談できるのは、利用者にとって大きな安心につながる。また、同社と提携している管理会社の物件にア

プリ利用者が入居する際は、アプリからの入居・退去の申し込み、ルームチェック表の提出といった手続きができる。提携済みの管理会社の物件から部屋探しできる機能も付いている。このため、管理会社にとっては、管理業務を一元化できるだけでなく、家探しをする

アプリ利用者から物件を選ばれやすいというメリットがある。現在約16社の不動産管理会社と提携済みだ。今年中に、ダウンロード数1万、不動産管理会社の提携数120社を目標に掲げており、業務の拡大を図っていききたい考えだ。

街の魅力を伝える動画サイト開設

新生活を始めるきっかけづくりを図る

ハウスコム

不動産賃貸仲介大手のハウスコムは7月、ウェブサイトを『Story of station（ストーリーオブステーション）』をオープンした。

2018年5月から公開しているユーチューブ

動画シリーズ「住んで初めてわかるその街の魅力」をまとめたもので、住まいを探している人が、ライフスタイルに合った生活を始めるきっかけになるような情報を提供したいとの思いから開設に至った。

動画では、1人暮らしをする若い女性が住みや

新しい街をイメージし、同社の店舗があったり、アクセスの良い街を中心に首都圏45のエリアの情報を提供。

女性や男性、ファミリーのモデルが、その街の性格や特徴、生活の中心となる駅周辺、写真に収めたくないようなスポット、地域住民だけが知るエリアなどを実際に歩い